

令和6年度施設評価

社会福祉法人わたげのほし花園こども園

お子さんについて

お子さんは、こども園に安心して楽しく通えている。

無回答、
よくわからない

そう思わない

そう思う

0 2 4 6 8 10 12 14 16

園での出来事を、家で話してくれる（3才以上児）／
園での様子が感じ取れる（3才未満児）

無回答、
よくわからない

そう思わない

そう思う

0 2 4 6 8 10 12 14

テレビ、ゲーム、スマートフォンの使用時間や、決めた
ルールを守ることが出来る（3才以上児）／片付けなど簡
単なルールを覚えてやろうとする（3才未満児）

無回答、
よくわからない

そう思わない

そう思う

0 2 4 6 8 10 12

【お子さんについて】

◎「決めたルールやお約束」について

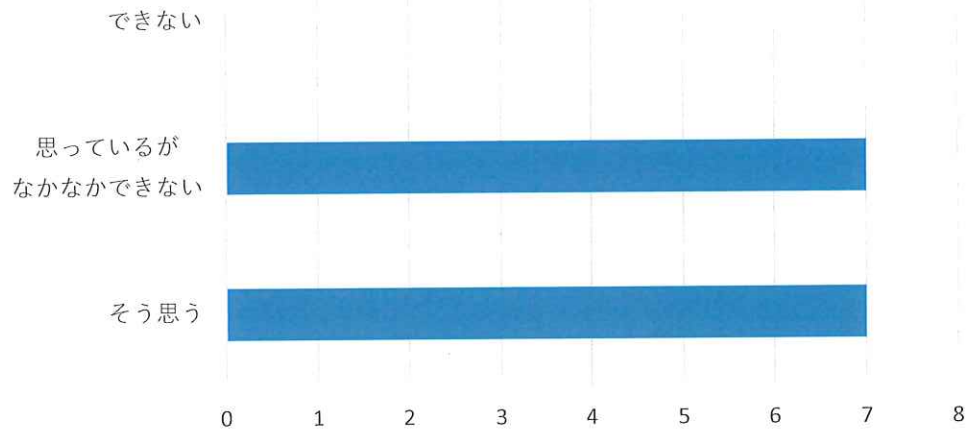
1歳を過ぎた頃から「一緒に片づけをするなど1つ1つ教えてはいますが、まだまだです」「親がバタバタして構ってあげられず、どうしても長くテレビを見てしまう」などの意見がありました。日常忙しい中全て寄り添うことは難しいので、1・2歳の頃は「一緒にやって、出来たらほめてあげる。すると嬉しくてまたほめられたくて頑張る」、3歳からは「約束やルールを守れたらスタンプやシールを貼り、30個たまったら好きな所に遊びに行く」など、モチベーションを高めながら、習慣が身に付くように取り組んでみることも方法の1つです。

◎「興味や関心を持ったことに、意欲的に取り組む力」について

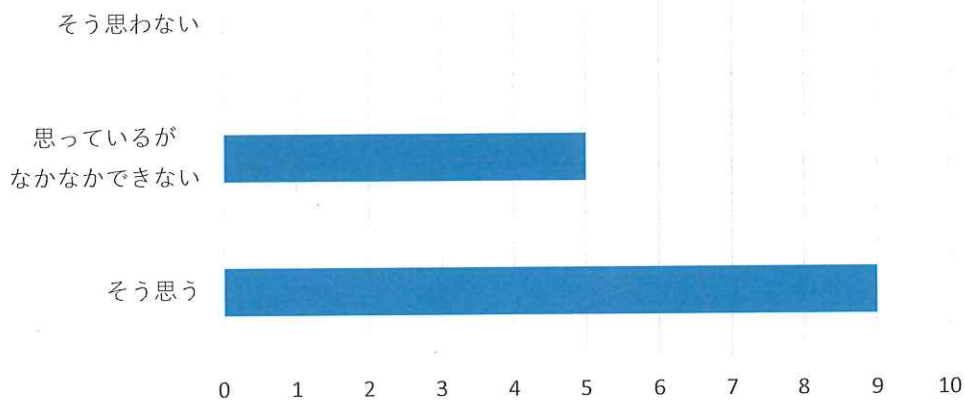
乳幼児期に育てておきたい とても大切な部分です。今回回答をお寄せ下さったすべての保護者の方が、お子さんの姿にそう感じられているということで、とても嬉しく思います。小さいうちから、沢山いろいろな体験をし、失敗したり上手くいかない体験をすることで、どうやったらできるかと試行錯誤をしていきます。その中で、子ども自身の力が育まれ、大きくなってからも柔軟な思考で失敗を恐れず挑戦できるようになります。親心で「辛い思いをしないように、失敗しないように」となんでも先回りしてフォローしてしまうと、成長できるチャンスを奪ってしまうことにもなりかねません。見守って応援してあげることも大切です。

保護者の方について

子どもと触れ合う時間を大切にしている。



規則正しい生活や挨拶、身の回りのことなど、
基本的な生活習慣が身に付くよう心がけている。



子育てが楽しいと共に、難しさや悩みがある。

出来れば誰か
(どこかに) 相談したい

そう思わない

そう思う

0 2 4 6 8 10 12



保護者の方について

【保護者の方について】

どの回答からも、家事、育児、仕事に日々追われ、時間と気持ちに余裕が持てない現状があるように感じました。「こうなってほしいという思いでいろいろ工夫するが上手くいかない」「意志がはっきりしてきてからの難しさがある」

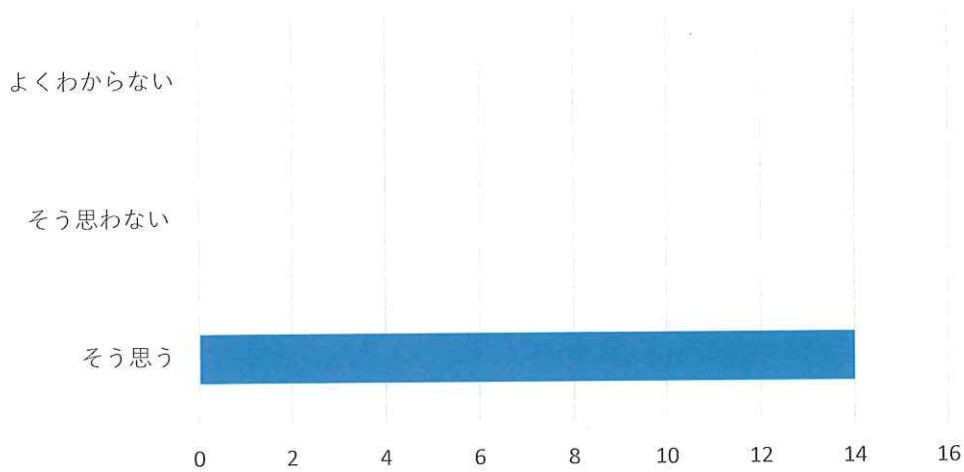
「離れている時間が多い分、甘えたい気持ちがある事も理解できるので、迷う部分もある」「夫婦間での子どもに対する考え方の違い」など、成長に伴い、色々な悩みもでてくるのが分かります。

お子さんにとって、園は安心できる場であると共に、初めての社会生活の場になります。楽しんで生活しながらも、様々な葛藤や我慢も体験するため、家庭はホッと心が安らぐ場であることが大切に思います。甘えたい時にはしっかり受け止めてもらい、心の充電をすると頑張る力が湧いていきます。

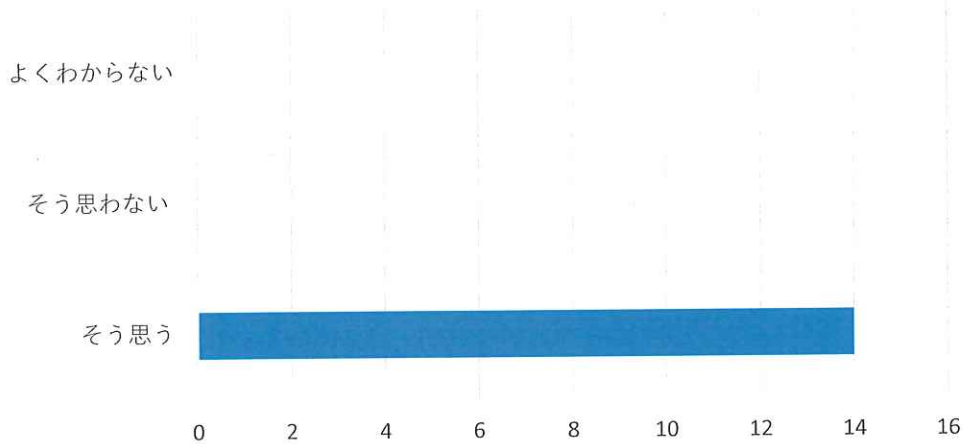
生活習慣が身に付くためには、園と家庭で同じようにすすめていくことが必要ですが、家では甘えてできないことがあっても、園でできていれば力は育っているので大丈夫！どちらでもできない時は、何か理由があるので、一緒に考え解決していきましょうね。

園について

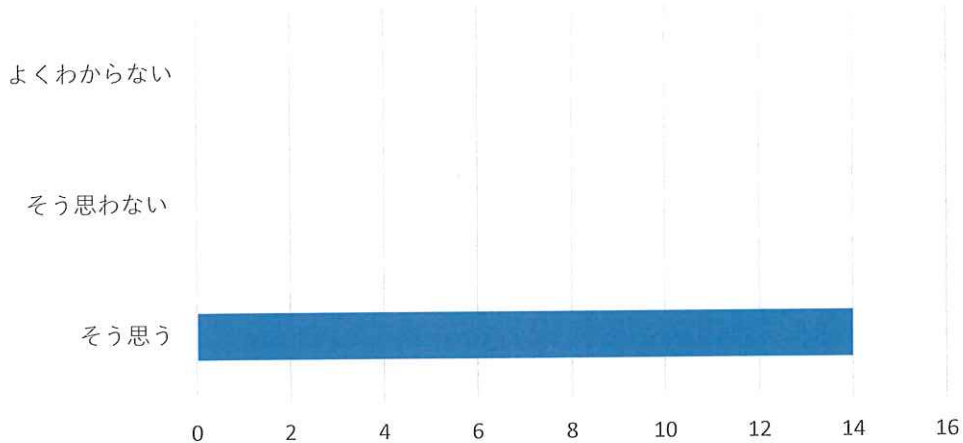
園の方針に沿った教育・保育が実践されている。



園での様子やお知らせを、コドモンやHP、送迎時などに知ることが出来ている。

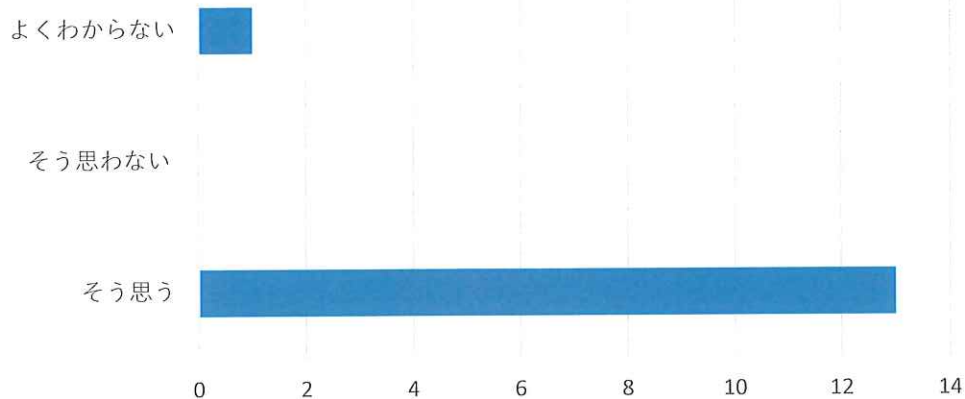


個人面談や送迎時などに、不安や質問に丁寧に答えてくれる。

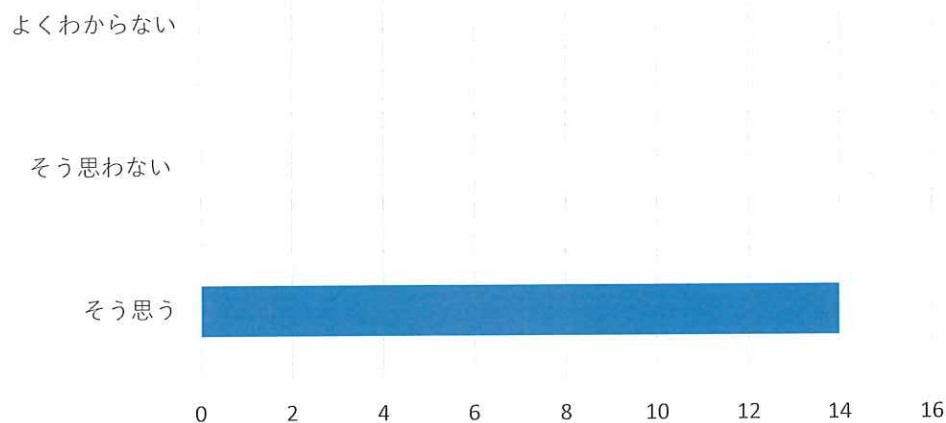


園について

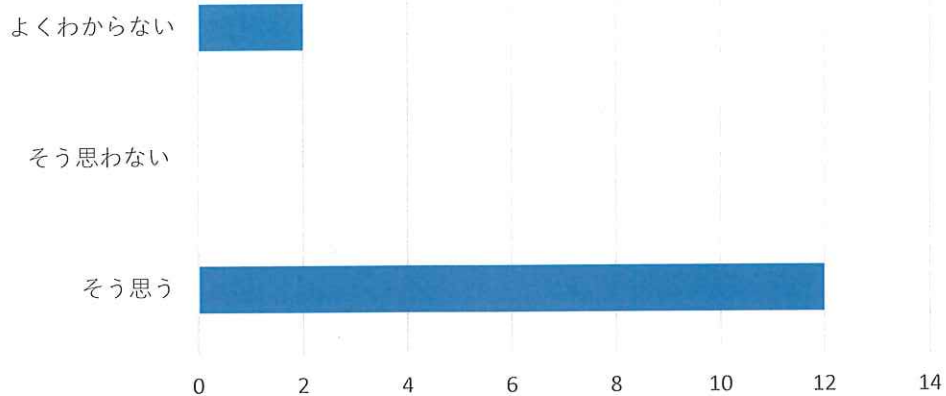
行事や活動に子どもたちが意欲的に参加し、
楽しんで遊べる環境が工夫されている。



防犯、防災の安全管理が出来ている。



アレルギーや除去食の対応など、
個別配慮がなされている。



園について

食育活動（調理担当者による毎月の食にまつわる活動・野菜の栽培・クッキングなど）や給食の献立を工夫し食への関心を高めている。

よくわからない

そう思わない

そう思う

0 2 4 6 8 10 12 14 16

安心して生活できるよう、清潔な環境整備に努めている。

よくわからない

そう思わない

そう思う

0 2 4 6 8 10 12 14 16

園について

【園について】

園の方針や教育・保育内容、その他行事や活動など、皆様にご理解を頂いていることが分かり嬉しく思います。また、保護者の皆様の悩みや不安に対しても、できるだけ時間を設けて話を伺えるよう努めていきます。

◎「楽しんで遊べる環境について」

新入児の方から、「認識できていなかった」というお答えがあり、確かに「室内の環境構成や工夫」は、普段見ることが出来ない部分になるため、保育参観日に実際に見て頂いたり、写真と共に取り組みをコドモンでお知らせするなど工夫していきたいと思います。

◎「アレルギー対応食について」

「我が子にアレルギーがなく、どのように対応されているのかわからない」とのご意見があり、今後「代替食」を展示したり、献立表の中でお知らせするなど検討していきたいと思います。

【その他】

「いつも子どもたちを第一に、日々丁寧に関わっていただきありがとうございます」「自らが意欲的に今すぐやってみたい！と思えるような雰囲気づくりや、楽しんで遊べる環境づくりが工夫されていると思う」「のびのびと自分がやりたい遊びを楽しんでいる姿を見て、成長を感じています」などのご意見を頂き、信頼関係の下でお子さんへの思いを共有しながら、日々の教育・保育ができ、感謝の思いで一杯です。

他にも、「大人（自分）が楽しい！やってみたい！と感じられる環境こそが、子どもにとっても興味深い環境であると思います」との言葉に、職員自身も楽しめなければ、子ども達にも伝わらないと改めて感じました。

又、「屋上に登る階段に荷物があり、お迎えが重なったときに少し狭さを感じる」といったご意見がありましたので、すぐに必要ないものは移動し、屋上入り口付近の遊具は戸外置きは難しいため、できるだけ整頓するようにいたします。

お忙しい中、貴重なご意見をありがとうございました。
今後の園の運営に役立たせて頂きます。

令和6年度 自己評価

社会福祉法人わたげのほし
花園こども園

1. 園の教育・保育目標

生き生きと心豊かに遊び、安心して穏やかに過ごすことで、生きる力に溢れた、健康でたくましく、賢い子どもの心身を育む。

2. 本年度に定めた重点的に取り組む目標

- ・一人ひとりの声に耳を傾け、必要な支援を行いながら、子ども達が自ら「意欲的に遊ぶ環境作り」を目指していく
- ・充実した教育・保育活動を行っていくためにも、生き生きと職員が働けるシステムづくりを構築していく

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況	評価
教育・保育活動について	・今年度重点的に取り組む目標である「意欲的に遊ぶ環境作り」を、各学年ごとに子どもたちの発達や興味・関心のある物事に応じて進めていったことで、遊びや興味の幅が広がり、結果として気の合う仲間とじっくり遊び込む姿が多く見られるようになっている。 ・年長児は 12 名という少人数だったこともあり、落ち着いて様々な行事や活動に取り組み、運動会や鯨太鼓披露という一大イベントでは、リーダーとしてとても意欲的に挑み、一体感を持って成し遂げる姿に大きな成長を感じた。 ・3 才以上児クラスでは「焦らず見守る」ことを大切に、なるべくせかすことなく、自分で気づいて行動できるきっかけ作りを心がけたことで、マイペースなメンバーの嬉しい成長の姿が見られた。また自分と相手の思いのぶつかり合いの中で、葛藤しながらも一緒に遊んでいける距離感を学んだり、年長児の製作や運動遊びに取り組む姿に憧れを持ち、自分も出来るようになりたいと頑張る姿が印象的だった。 ・年長児が落ち着いていたことで、縦割りクラスへの年少児の編入も 6 月の早い時期に行うことができ、お互いに良い影響を与えながら成長していく姿がみられた。 ・0 才児は少人数からのスタートで、後期に入り低月齢児が順に入所してきたことで、慣れていくまでの期間落ち着かない様子はあったが、担任とサポート職員でその都度話し合い対応することで、安心して生活し、各自のペースで成長している。 ・1 才児はわらべうたやリズム運動、季節のうたを毎日少しずつ日常的に取り入れてきたことで、耳に慣れ身体にも馴染むことで子どもたちの中に浸透し、親しみ楽しみながら発展していく姿が見られた。 ・2 才児は月齢差が大きく、個性豊かなメンバー一人ひとりの発達や特性に寄り添った丁寧な関わりを心がけ、子どもが抱える困り感を和らげ、未発達な部分が成長できる支援してきたことで、笑顔で元気溢れるクラスとなっている。	A

研修等資質向上の取り組み	・各自参加した研修の報告や、療育支援、心と身体を作る運動遊びなどの今必要な課題を学ぶため、専門講師を招いて園で出来る療育やサポート支援の方法を学び、より良い教育・保育及び環境援助を目指し職員間で共有している。 ・教育保育実践勉強会では、園の根幹となる「保育課程」の見直しを引き続き行い、「縦割り保育」「担当制(未満児クラス)」「裸足保育」「わらべうた」など、時代に合わせつつ園の理念を大切にしたい内容を今後も実態に合わせて変化させていき、その内容を保護者の方にも伝える機会を作っていく。	B
教育環境整備	・子どもたちが今何に興味関心があるか、子どもたちの姿から必要な準備を考察し、環境構成を行った。特に 3 才以上児では、先の予定(季節の行事や活動)に向けた導入として、意識付けとなるよう、写真や歌の歌詞を掲示したり、関連するコーナーを作るなど、自然と親しんでいけるような環境整備を心がけた。ただ、大きな行事がある時期は、通常の遊具、玩具の見直しや環境作りが十分には至らなかった。 ・0～2 才児では、手指の発達を促す遊具やつかまり立ちで楽しめる玩具を手作りで準備するなど、子どもたちの成長を促す手助けとなるものを、必要な時期に合わせて整備していった。	A
食育の充実	・感染状況をみながら、年長児や 2 才以上児からのクッキングを数回実施できたことは良かった。やはり、自分たちで作った食事は美味しいと感じるようで喜んで味わっていた。 ・今年度も「ごはんのお話」で、調理担当者が 3 才以上の園児に向けて、「旬の食物クイズ」や「食べ物カルタ」など、手作りの教材で食に興味関心が高まるきっかけづくりを行った。 ・各クラス担任と、栄養士、調理師が参加する検討会で、成長に応じた食器の準備、手掴みからスプーン、箸への移行のタイミングなど、子どもたちの実態に合わせて進められるよう、細やかに課題などを話し合い、家庭との協調が不可欠なため、保護者の方にもお伝えし、小食、偏食、アレルギー対応などの改善を図った。	B
特別支援教育	・前期、後期に一度ずつ、特別支援学教諭による巡回相談を実施し、集団生活の中で子どもたちが感じる困り感をできるだけ軽減し、自己肯定感を持ち、達成感や充実感を感じながら、意欲的に取り組むためには、どんな手立てや配慮があるかをアドバイスいただき、実践に努めた。 ・療育に通われている園児に関し、情報共有やそのお子さんに最適な関わりを学ぶため、療育施設へ見学に行き、園で活用できる内容を取り入れたり、施設職員を園に受け入れ、園での様子を見ていただくなどしながら、お子さんにとってより良い環境作りを心がけた。	B
地域・小学校との交流活動	・平和学習の一環として、4 月に城山小学校を訪問し、「かよこ桜」や被爆遺跡の見学を行った。 ・秋には西城山小学校 1 年生との交流会に参加し、1 年生が準備してくれた手作りのお店やさんやゲームコーナーを年長児が自分たちで回り、楽しく交流させていただき、小学校への期待感が高まっていた。また、卒園児が楽しく仲間と協力して取り組む姿を見ることができ、その後の様子を知る良い機会となった。	A

	・3月には、年長児が西城山小学校を訪問し、給食を食べる様子や、お昼休み、授業を受ける場面まで少し見せてもらうことで、就学への不安感を減らし、期待感を高められるようにし、引き継ぎは、各小学校の現1年生の担任の先生や、教頭先生等に丁寧に伝達を行う。	
保健・安全管理	・内科健診、歯科検診は、前後期合わせて2回実施した。 ・学校薬剤師が定期的な検査を行い、園内の衛生管理を行った。冬場は室内の湿度が不足していたため、十分加湿が行き渡るよう、高めに設定し、55%を下回らないよう気をつけていく。 ・避難訓練は毎月行い、不審者対応訓練では、通報し警察が到着するまでの時間を安全に守るための避難の仕方、子機を使った情報交換など、不審者役の職員が見つけた不備箇所やお互いの気づきを出し合い、改善を図った。 ・災害時対応訓練では、1月に西部自治公民館まで一斉避難及び荷物の運び出しを行い、災害時に使用する簡易トイレや備蓄食・ミルクの提供の仕方、保護者との連絡方法の確認など、実際に起こりうる過程を想定しながら進めたことで、出てきた課題を1つずつ改善していく。 ・交通安全教室を年2回実施し、安全意識を高めると共に、実際の園外活動で交通ルールの確認を行った。	A
保護者との連携	・特に未満児クラスは、生活習慣の獲得において保護者との連携が重要であり、共通理解のもと家庭でも同じ関わりが出来るよう、情報共有をしっかりと行っていったが、ご家庭での悩みを伺うなどの時間を日常でゆっくり取ることは難しいため、次年度は個人面談を早めに実施したり、必要に応じて2～3回行うなどして、安心して子育てが出来るよう支援していく。 ・保護者参加行事には、毎回多くの方が参加し、園でのお子さんの姿への関心の高さが感じられた。今後も集団生活の中での成長の様子を見てもらう機会として、内容を精査し、感染状況に配慮しながら実施していくと共に、育児講座のテーマなど、今の保護者の方に必要と感じるテーマを、面談のお話などから考察し取り上げていく。	A

評価結果の表示方法

A＝十分達成されている B＝達成されている C＝取り組まれているが、成果が十分でない

D＝取り組みが不十分である

4. 総合的な評価

結果	理由
B	・子ども達が自ら「意欲的に遊ぶ環境作り」を目指し取り組んできたことで、後期になり、どのクラスでも活発に遊び込む姿が見られるようになり、3才以上児では友達同士で遊びを工夫し展開していく姿や、異年齢が一緒になり、サッカーや鬼ごっこなどの遊びを自分たちだけで継続し楽しめるようになっている。 ・これまで以上に「子どもの声」に耳を傾けることを意識して行うことで、目には見えない「心の声」に気付くことも多く、特に思いを言葉で上手く表せない低学年児は、丁寧に話を聞いてもらうことで安心感に繋がり、見違えるように意欲的に活動する姿が見られるなど、子どもたちの自己肯定感を育むうえでも、「傾聴する」ことの大切さを実感した。

	・0～2 才児においても、個々の発達による様々な思いの表現に応じた丁寧な対応を行ってもらうことで、自己肯定感の向上、情緒の安定を図る上でも同様に実感した。 ・充実した教育・保育活動を行っていくために、生き生きと職員が働けるシステム作りを構築していくため、子どもたちの指導計画や製作、行事活動の準備などに充てる「作業時間」を、サポート職員を配置するなどして、保育に影響の出ない範囲で少しずつ増やしていき(月3～6時間程度)、心身ともにゆとりを持った働き方が出来るよう努めてきた。また全国的に保育士不足の現状の中、人材を確保し、子ども達や保護者の方に寄り添いながら、「働き甲斐」を感じられる職場環境作りを継続して行っていく。
--	--

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
・教育・保育活動について	・0 才から年長まで継続した活動(感覚、運動遊びなど)を行っていくことで、各自の適切な成長の段階でステップアップ出来るよう支援していく。 ・心と身体作りに繋がる運動遊びを、年齢毎に工夫して取り入れていく。
・保護者との情報共有	・見直しを進めている「保育課程」や「アレルギー対応食」「楽しく遊べる環境作り」について、コドモンや給食だより、展示食などで紹介していく。
・施設整備	・「自分たちで遊びを作り出せる園庭作り」をテーマに、数ヵ年計画で園庭整備を進めていく。
・小学校との連携	・『架け橋プログラム』の実現に向け、近隣の幼保施設と連携を取りながら、小学校と連携した計画の作成を進めていく。